

## イッカクとセルロイド

有馬温泉といえば道後温泉、白浜温泉とともに日本三古湯に挙げられている温泉地です。その中で開業七百年を誇る老舗が秀吉の簪を所有しているという先日のテレビ番組をご覧になられた方も多いと思います。

その簪がイッカクの牙だということで番組では 99%間違いないと結論づけていました。

で、イッカクとは一体何だ、秀吉が簪を挿していたのか、簪は何時頃から挿しているのか、など様々な疑問を持たれたことと思います。今回は、それらに答えていきセルロイドとの関係を述べていくことといたします。

先ずイッカクなる生き物ですが北極海やハドソン湾などに棲息しているクジラの仲間です。イッカク目、イッカク属で一つだけで類似の動物はいません。名前の通り一本の角を持っています。



これは正確には角ではなくて歯が伸びたものです。主に雄の左側の歯がドリル状に伸びたものですが、雌でも伸びる場合があります、また両方とも伸びてイッカクならぬニカクとなる場合もあります。

用途についてかつては氷に孔を開けて呼吸をすると言われていましたが、最近では温度や圧力を感じるセンサーだと言われています。また魚などの獲物に一撃を与えて仕留める武器としても使われています。

生息数については 3 万頭程度だとも 25 万頭はいるといわれています。生息場所があまり

にも遠いのと生きて捕まったことが無いために、まだまだ分からないことが多い生き物です。

この歯がユニコーンの角だと言われて高額で取引されてきました。毒を感知して色が変わる、割れるなどの言い伝えがありますが、それは一部本当、一部嘘です。というのは独の種類によっては化学反応によって色が変わることもあるからです。でも殆どの場合は何の変化もありませんので信用しないほうが良いです。この言い伝えにより漢方薬店で看板や宣伝材料として展示しているのを見かけることもあります。

では次に秀吉が簪を挿していたのかということですが、これはあります。



上の像の頭を見てください。烏帽子をかぶっていますね。この烏帽子や髷がずれないようにするために簪が使われていました。簪というと女性の物という感じがしますが男性も使用していたのです。

それならば番組で紹介した簪は秀吉が使用していたものであるかということの答はNoの可能性が大です。

といいますのがイッカクの捕獲自体は何時頃から始まったかは分かりませんが、10世紀頃にはユニコーンの角だとして行われていました。

秀吉の没年は1598年ですので、番組に出てきた物は最低でも432年前の物だとなります。その当時にあったわけですが、日本にやってきたかという話は別です。というのは当時日本にやってきたのは主にスペイン、ポルトガルの船です。イッカクの捕獲はデンマーク、アイスランド、ノルウェーなどが行っていた小規模なものです。スペイン、ポルトガルはこれらの国との交易が殆どなく、イッカクを入手していたとは考えにくいのです。

では何時頃ののかといいますと150~200年くらい前に長崎の花魁が挿していたもの

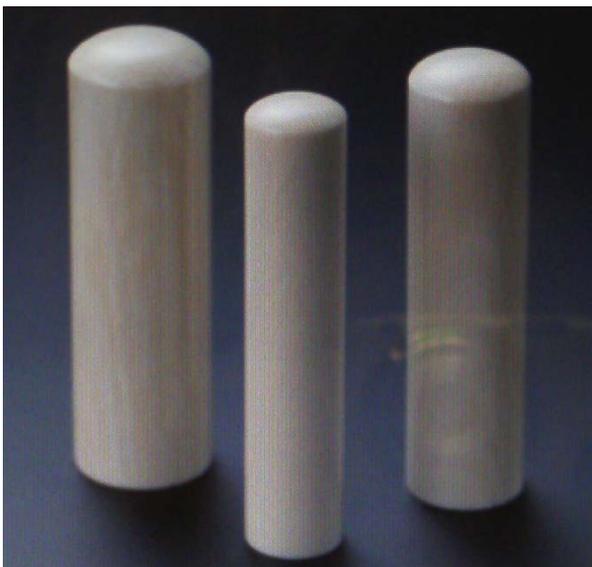
ではないかとなります。

というのは19世紀頃から捕鯨が盛んになります。最初はオランダ、次いでアメリカが商業捕鯨に乗り出します。灯りに使う油を採るための捕鯨ですが、この時に北大西洋に棲息していたホッキョククジラを絶滅させてしまうほどの乱獲でした。そのため太平洋に目をつけたアメリカが捕鯨基地を確保するために日本にやってきたことはあまりにも有名です。

この19世紀に棲息場所を同じくするイッカクも乱獲されます。そのため価格が急落します。一時は金の十倍とも言われていたものが象牙よりも安くなります。その当時、象牙の乱獲を反省した結果がセルロイドの発明に繋がったという話は、これまでも伝えてきた通りです。

この比較的入手しやすくなった時期にオランダ船が持ち込んだ物を長崎で加工して当地の花魁が挿したものが、何時の間にか秀吉のものとなったというのが本当のところでしょう。長崎は今でもクジラの歯を加工していますので、イッカクの牙を加工することも出来ました。

セルロイドの発明が象牙の代用品でしたが、象牙の目は平行に走っているのに対してイッカクの牙は左巻きですので目も斜めに走っています。また色が乳白色の象牙に対してピンクがかっているのも特徴の一つです。



象牙



イッカク

セルロイドの模様ですが、象牙模様はお手のものです。イッカクのような模様も可能ですが、あまり需要がなかったようです。

今では象牙、イッカクはともにワシントン条約の規制がかかっています。代用品であったセルロイドも日本国内での製造は終了しています。この応用範囲が広いセルロイドの魅力をこれからも伝えていくこととします。